

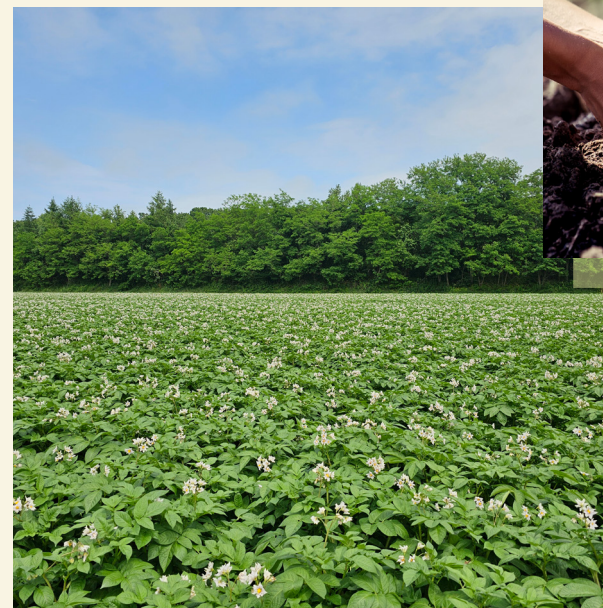
SECTION 04

サステナビリティ 経営の推進

環境・社会・経済を取り巻く課題に対して、ステークホルダーとともに

新たな価値を創造するサステナビリティ経営を実践しています。

自然資本を持続可能なものにし、お客様へ自然の恵みを提供し続けていきます。



企業価値の向上

SECTION 02

価値創造の
原動力

SECTION 03

継続的な
事業成長

SECTION 04

サステナビリティ
経営の推進

SECTION 05 経営基盤



5つのマテリアリティ

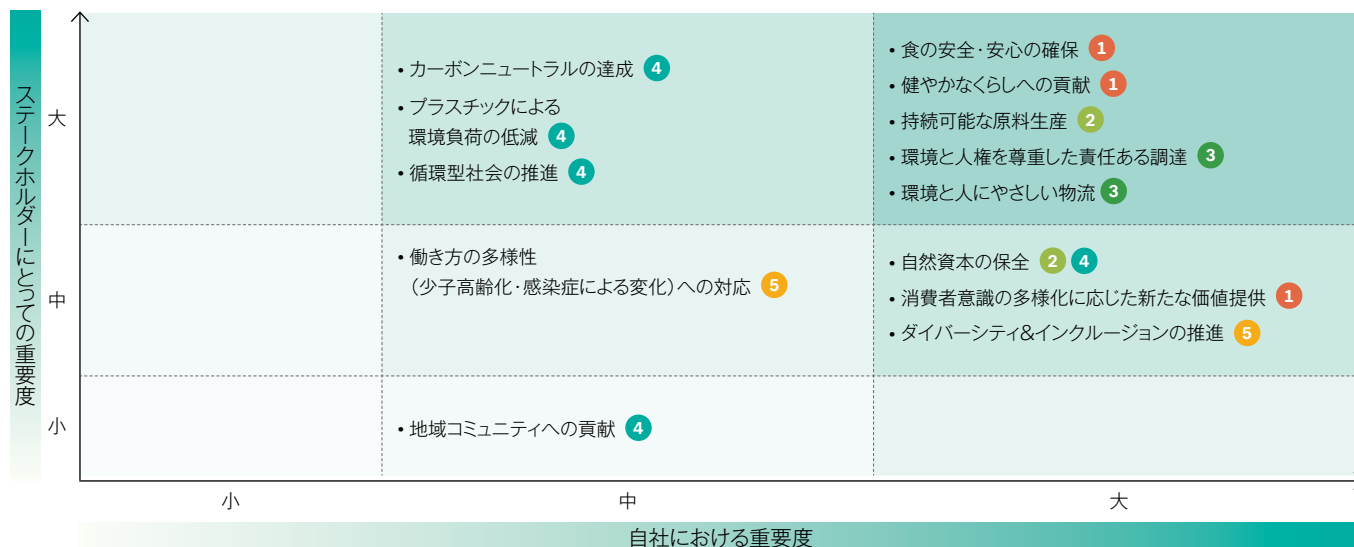
カルビーグループは、サステナビリティを経営の根幹に据え、環境問題やサプライチェーン上の人権問題などに対応することで、持続可能な社会の実現を目指しています。私たちは、農作物や海産物など自然資本から生まれる自然の恵みである原料を持続可能なものにし、グローバルでお客様に提供し続けることが使命だと考えています。

自然資本の重要性の高まり、気候変動対策、人権問題の顕在化などサステナビリティに関わる外部環境の変化に伴い、2022年にマテリアリティの見直しを行い、新たに5つのマテリアリティと13の重点テーマを再特定しました。また、重点テーマの取り組みを推進するために、2024年3月に「カルビーグループ人権方針」を制定しました。同時に、「国連グローバル・コンパクト」への署名も行い、活動をグローバルに拡大しています。

カルビーグループの5つのマテリアリティ

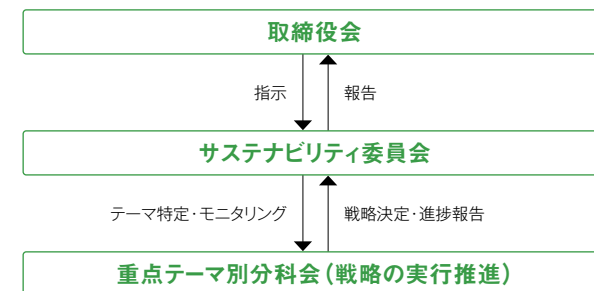
- 1 人々の健やかなくらしと
多様なライフスタイルへの貢献
- 2 農業の持続可能性向上
- 3 持続可能なサプライチェーンの共創
- 4 地球環境への配慮
- 5 多様性を尊重した全員活躍の推進

マテリアリティマップ



サステナビリティ経営の推進体制

取締役会がサステナビリティ経営に関する監督の責任を持ち、その推進については、2019年に設置したサステナビリティ委員会が担っています。同委員会は、代表取締役社長兼CEOが管掌し、原則年2回開催しています。マテリアリティの特定および重点テーマの設定を行い、各分科会で推進する重点テーマのロードマップの審議や進捗状況のレビューを実施し、その内容を取締役に定期的に報告しています。



5つのマテリアリティ

マテリアリティに基づく重点テーマと主な施策

マテリアリティ	重点テーマ	目標達成への主な施策	目標 (KPI)	2024年3月期実績	SDGs との対応
① 人々の健やかなくらしと 多様なライフスタイルへの貢献	食の安全・安心の確保	- 安全・品質に関する予防と監視 - 安心への取り組み	—	—	
	健やかなくらしへの貢献	- 食塩無添加／低塩／減塩商品を拡大 - たんぱく質を多く含む商品を拡大	2031年3月期 - 食塩無添加／低塩／減塩商品^{*1}の 販売金額 200%(2023年3月期比) - たんぱく質の多い商品^{*2}の販売金額 200%(2023年3月期比)	➡ 110.1% ➡ 111.8%	
	消費者意識の多様化に 応じた新たな価値提供	- スナックスクール(食育)の深化 - 工場見学の活性化、進化	2024年3月期 フードコミュニケーション^{*3} 累計参加者数 (2019年4月～5カ年) 40万人 (5年間で全国小学校3～6年生の人口の4%に相当)	➡ 416,384人	
② 農業の持続可能性向上	持続可能な原料生産	国産ばれいしょの収量増加に向けた、科学的栽培の 推進・品種の変革・農業の省力化・産地の分散化	—	—	
	自然資本の保全	土壌分析による適正な施肥実施	2028年3月期 リン酸減肥普及率 80% (北海道エリア)	➡ 23.7%	
③ 持続可能な サプライチェーンの共創	環境と人権を尊重した 責任ある調達	サプライチェーンアセスメントを通じて エンゲージメントを結び、 環境・人権に配慮した調達を推進	—	—	
	環境と人にやさしい物流	- 物流効率化による労働環境の改善 - 温室効果ガス排出量の削減 (Scope3カテゴリー4,9)	—	—	
④ 地球環境への配慮	カーボンニュートラルの 達成	- Scope1、2における削減 電力購入先の転換、省エネ活動、工場発電など - Scope3における削減 段ボールサイズの変更、配送頻度減、積載率向上 サプライヤーエンゲージメント ばれいしょ排出量の見える化	2031年3月期 温室効果ガス総排出量 30%削減 (2019年3月期比)	➡ 全体: 3.5%増加 Scope1: 11.6%削減 Scope2: 57.3%削減 Scope3: 16.3%増加 (注) Scope3カテゴリー1の排出係数IDEA (Ver. 3.2)	

5つのマテリアリティ

マテリアリティに基づく重点テーマと主な施策

マテリアリティ	重点テーマ	目標達成への主な施策	目標 (KPI)	2024年3月期実績	SDGs との対応
④ 地球環境への配慮	循環型社会の推進	- 製品フードロス削減 - 水使用量削減 3Rの促進	2024年3月期 ・製品フードロス 20%削減 (2019年3月期比) 2031年3月期 ・水の総使用量 10%削減 (2019年3月期比) 2031年3月期 ・廃棄物排出量 10%削減 (2019年3月期比)	➡ 10.6%削減 ➡ 2.7%増加 ➡ 6.9%増加	
	プラスチックによる環境負荷の低減	- 石油由来のプラスチック包材の削減 - 代替原料への転換やリサイクルの促進	2031年3月期 ・石油由来プラスチック包装の代替・削減 50% (2019年3月期比) 2051年3月期 ・環境配慮型素材 100%使用	➡ 0.9%代替・削減	
	自然資本の保全	TNFDのフレームワークに沿ったリスク評価の実施 (マイルストーンの提示)	—	—	
	地域コミュニティへの貢献	- 社会貢献活動全員参加 - 環境領域の拡大 (森林ボランティア活動 海浜・河川保全活動の支援・参加)	—	—	
⑤ 多様性を尊重した全員活躍の推進	働き方の多様性への対応	- 全員活躍 - 多様性理解の教育体系整備 1on1ミーティングの推進・定着化	—	—	
	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	- ダイバーシティ&インクルージョンの推進 - 人財育成の強化 - 働き方改革	2024年3月期 ・女性管理職比率 30%超 ・男性育児休業取得率※4 100% ・障がい者雇用率 2.5%	➡ 22.6% ➡ 109.0% ➡ 2.62%	

※1 栄養強調表示の基準値(食品表示基準第7条第1項 別表第12、第13)

※2 栄養強調表示の基準値(食品表示基準第7条第1項 別表第12、第13)をベースに自社基準で選定した商品が対象

※3 カルビー・スナックススクール、工場見学、お菓子コンテストなどの食育活動

※4 2023年3月期より、育児休業取得者数および育児を目的とした休暇制度の利用者数の合算より算出

特集

未来につなぐ自然資本

農業と密接に関わるカルビーグループの事業活動は、サプライチェーン全体を通じて自然資本からの自然の恵みに依存し、陸地・淡水・海水・大気に影響を与えています。自然資本の保全は、5つのマテリアリティのうち、「農業の持続可能性向上」「持続可能なサプライチェーンの共創」「地球環境への配慮」との関わりが深いテーマです。

カルビーグループの事業活動と自然資本との関係を明確にするため、下図の通り、主要な原材料である「ばれいしょ」「パーム油」「フィルム」について依存と影響を確認しました。例えば、ばれいしょ、パーム油においては、農地や水などの自然資本に依存している一方で、調達量の増加などにより自然資本に影響を及ぼす可能性があります。自社だけでなく、農家やサプライ

ヤーなどのステークホルダーとともに、これらの重点テーマに取り組み、未来に自然資本をつないでいきます。さらに、原材料の持続可能な調達を展開させるために、「TNFDのフレームワークに沿ったリスク評価の実施」を行い、TCFDを統合したTNFDの開示を2025年に計画しています。経済価値だけでなく環境や社会課題に取り組み、持続可能な未来に向けた活動を進めていきます。

▶ 「TCFDフレームワークに基づく開示」についてはWEBサイトをご参照ください。

<https://www.calbee.co.jp/sustainability/environment/pdf/tcfd.pdf>

カルビーグループの5つのマテリアリティ

- ① 人々の健やかなくらしと多様なライフスタイルへの貢献
- ② 農業の持続可能性向上
- ③ 持続可能なサプライチェーンの共創
- ④ 地球環境への配慮
- ⑤ 多様性を尊重した全員活躍の推進

カルビーが考える「ビジネスと自然資本との接点」(概念図)

バリューチェーン			自然資本							
			陸地		淡水		海水		大気	
			依存	影響	依存	影響	依存	影響	依存	影響
原材料調達	(1) ばれいしょ	圃場	カーボンニュートラルの達成	自然資本の保全 ・農業の持続可能性向上	栽培に使用する雨水			自然資本の保全 ・農業の持続可能性向上		カーボンニュートラルの達成
	(2) パーム油	農園		認証パーム油使用拡大	栽培に使用する雨水					環境と人権を尊重した責任ある調達
	(3) フィルム	サプライヤー		プラスチックによる環境負荷の低減	製造工程で使用する水	製造工程で発生する排水		プラスチックによる環境負荷の低減		
輸送（上流）	サプライヤーから工場まで		カーボンニュートラルの達成							カーボンニュートラルの達成
生産	工場			循環型社会の推進	循環型社会の推進			循環型社会の推進		
輸送（下流）	工場から店舗まで									
店舗	店舗			土地利用						

特集

未来につなぐ自然資本

(1) 持続可能なばれいしょに向けた取り組み

自然の恵みを大切に活かすカルビーグループにとって、気候変動による地球温暖化と自然資本の保全の取り組みは、喫緊の課題といえます。主原料であるばれいしょの安定した品質と調達の取り組みについて、国内では約1,700戸の契約生産者およびステークホルダーと共創し、持続可能性の向上を推進しています。

リスクと機会

ばれいしょの調達では、他の作物と同様に気候条件（日照時間・気温・天水など）に大きく影響され、収量不足や品質低下が発生するリスクがあります。リスクへの対応として気候変動による地球温暖化対策や自然資本の保全を機会と捉え、取り組みを行っています。

—— 契約生産者と協働での温室効果ガス排出量削減への取り組み

カルビー国内グループは、2018年から温室効果ガス排出量を算定し検証を受け、排出量削減に取り組んでいます。2023年3月期では、温室効果ガス排出量約62万トンのうち、Scope1&2では、27.5%削減しました。しかしながら、事業の成長によるScope3排出量は、年々大きくなっています。そこで、全排出量の46%を占める原材料（Scope3カテゴリー1）の温室効果ガス排出量削減に着目しました。

2023年3月期には、環境省のモデル支援事業に参画し、原材料（Scope3カテゴリー1）の温室効果ガス排出量削減に取り組むためのロードマップを策定しました。

2024年3月期には、農林水産省と「ばれいしょの見える化」の事業において、簡易算定シート of データおよび検証に貢献しています。

この「ばれいしょの見える化」では、契約生産者を訪問し、それぞれの栽培工程で温室効果ガスが排出されているかを調査し、自社において算定の検証を行いました。今後もばれいしょ栽培における温室効果ガスの排出量削減に貢献していきます。

KPI 温室効果ガス総排出量：2031年3月期 30%削減（2019年3月期比）
リン酸減肥普及率（北海道エリア）：2028年3月期 80%

—— 自然資本の保全に向けた土壌分析による適切な施肥

作物が生長するために必要な要素として、窒素・リン酸・カリウムが肥料の3大要素といわれており、ばれいしょの栽培にもこれらの肥料が欠かせません。カルビーグループでは、ホクレン農業協同組合連合会（以下、ホクレン）との連携により、さまざまな土質や条件によって違いがある畑の土壌分析を行い、それぞれの畑に合った適切な肥料の提案を行っています。

科学的根拠に基づいた栽培技術の推進によりリン酸に着目し、ホクレンを通じて帯広畜産大学との共同研究を進め、得られた科学的根拠からリン酸減肥の活動を推進しています。

さらにリン酸減肥の基準に基づき、それに対応する肥料銘柄の開発をホクレンと実施し、北海道エリアにて開発した肥料銘柄の普及に共同で取り組んでいます。

今後も自然資本の保全に向けて、ステークホルダーとの共創によって科学的根拠に基づく栽培技術を推進していきます。



特集

未来につなぐ自然資本

(2) 持続可能な認証パーム油の取り組み

カルビーグループの国内工場では、ポテトチップスのフライ工程など、調理油としてパーム油を年間約4万トン調達しています。約80%がインドネシアとマレーシアで産出されますが、近年、パーム農園の開発に起因する不法な環境破壊や児童労働などの人権侵害が大きな社会問題として指摘されています。

カルビーはトップリーダーとしてステークホルダーと共創し、パーム油の持続可能な課題に積極的に取り組みます。

リスクと機会

パーム油の栽培・生産工程では、農園開発に起因する森林破壊や、新たな泥炭地の開発による生物多様性の損失・劣化、強制労働・児童労働などの人権問題がリスクとして懸念されています。このような環境や人権のリスクに対応した取り組みをお客様だけでなく、バリューチェーン全体に展開し、その価値を伝えることを機会と捉え、活動を進めています。

—— RSPO 認証 パーム油への切り替えと サプライヤーエンゲージメントの強化

カルビーグループでは、環境や人権に配慮したRSPO認証パーム油を2030年までに100%使用する目標を掲げ、2021年7月から順次国内工場にてマスバランス方式^{※1}の認証パーム油を導入し、2022年4月には国内全工場と同方式の認証パーム油に切り替えました。2022年9月より、主力商品の一部に「RSPOラベル」を表示しています。

今後は、パーム油が含まれる原材料への認証パーム油使用の推進や製油サプライヤーとのエンゲージメントの強化によるデュー・デリジェンスの仕組み構築、自社では搾油工場および農園までトレースできる認証パーム油への展開を進めていきます。

※1 マスバランス方式：認証油と非認証油が混合されるが、認証農園・搾油工場から供給された認証パーム油の数量が保証されているモデル

—— 持続可能な原材料の価値をお客様に訴求

環境コミュニケーションとして「RSPOラベル」を主力商品の一部パッケージに表示し、お客様に認証パーム油の価値を訴求しています。2024年3月末時点で30品目に「RSPOラベル」を表示しています。（カルビー（株）、ジャパンフリトレー（株）合計商品数）

また、RSPO認証パーム油の使用がパーム油産地の環境や人権の問題解決に貢献することをまとめた動画を、カルビーサステナビリティサイトに掲載しています。（2024年3月末時点約20万回視聴）

パーム油におけるこのような環境や人権への取り組みは、環境コミュニケーションによって新たな価値としてお客様に伝えています。

また、紙などのFSC[®]認証マーク^{※2}やバイオマスマーク^{※3}など、その他の取り組みにも展開していきます。

※2 FSC[®]認証マーク：責任ある森林管理のマーク（Forest Stewardship Council[®]森林管理協議会）

※3 バイオマスマーク：生物由来の資源（バイオマス）を活用し、品質および安全性が関連する法規、基準、規格などに適合している環境商品の目印（一般社団法人日本有機資源協会）



特集

未来につなぐ自然資本

(3) プラスチック代替・削減への取り組み

カルビーグループは安全・安心な商品を提供するために、商品パッケージにプラスチックを使用しています。プラスチックにおいては、海洋プラスチック問題や石油資源の枯渇、プラスチックによる温室効果ガス排出などが大きな社会問題となっています。私たちは、商品パッケージの素材が持続可能であることを目指し、商品パッケージにおけるプラスチック使用量の削減や、環境配慮型素材への代替、リサイクルなどに取り組んでいます。

リスクと機会

カルビーはプラスチックが関連する「海洋プラスチック問題」「石油資源の枯渇」「化石燃料由来による温室効果ガス排出」が持続可能な調達のリスクと捉え、商品パッケージにおけるプラスチック使用量の削減、環境配慮型素材への代替に取り組んでいます。その取り組みにおいてリサイクルは、資源循環（サーキュラーエコノミー）になると考えており、リサイクル技術開発に協働で取り組むことを機会と捉え、活動を進めています。

—— 石油由来プラスチック包装の代替・削減の取り組み

カルビーは、品質の劣化を防ぐため、1983年に業界で初めて商品パッケージにアルミ蒸着5層フィルムを導入し、製品の品質保持に大きく貢献しました。一方で、複数の材質を組み合わせているフィルムの構造上、各層の素材を分離することが難しく、水平リサイクルが容易にできないという課題があります。

2019年5月に政府が発表した「プラスチック資源循環戦略」におけるマイルストーンを踏まえ、プラスチック包装代替・削減に関する目標を定めました。その取り組みとして、一部商品におけるパッケージフィルムの薄膜化、サイズの縮小、バイオマスプラスチックなどの採用を進めています。

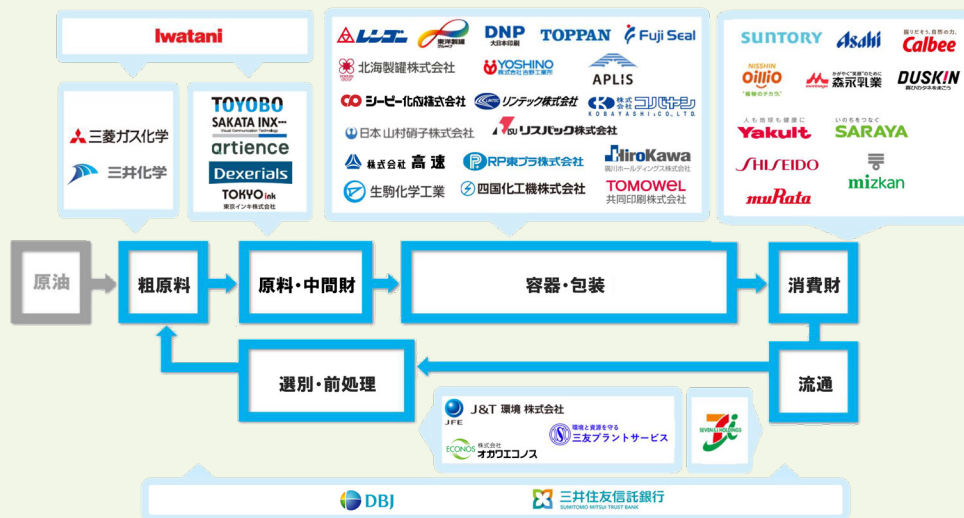
KPI 石油由来プラスチック包装の代替・削減：2031年3月期 50%（2019年3月期比）
環境配慮型素材：2051年3月期 100%使用

—— プラスチック再利用化に向けた他社との協働

2021年2月より、カルビーは(株)アールプラスジャパンへの資本参加を行い、使用済みプラスチックの再資源化事業に協働で取り組んでいます。

従来のケミカルリサイクルよりも短い工程で処理できる技術により、温室効果ガス排出量の低減やエネルギー必要量の抑制および使用済みプラスチックの効率的な再生利用を目指します。

将来的なプラスチック資源循環を目指し、参加企業各社と共同で使用済みプラスチックの再利用化に向けた回収の取り組みを推進しています。



(株)アールプラスジャパン参画企業一覧(2024年5月時点)